

例について, diffuse thyroiditis と focal thyroiditis に分け, 各種検査成績を対比させて検討したが明らかな差は認められなかった.

7. 副腎シンチグラフィーの経験

○都留 義治 木下 博史 稲月 伸一
計屋 慧実 本保善一郎
(長大・放)
鈴木 伸 青木 渉 橋場 邦武
(長大・三内)
徳永 毅
(長大・泌尿器)

我々は副腎皮質機能亢進症を疑われた患者に対し第1アイソトープ社製 19-¹³¹I-ヨードコレステロールを, 原則とし 1 mCi 使用して副腎シンチグラフィーを延べ30回施行した. 今回手術で確認した adrenocortical adenoma with primary aldosteronism (症例1: ♀41, 左副腎腺腫, 症例2: ♂52, 右副腎腺腫, 症例3: ♀35, 右副腎腺腫) の3例を報告した. 副腎シンチグラフィーは従来のX線学的補助診断法に比べ患者侵襲が少なく, 手技も簡単で, 容易に局在診断が出来た. 更にデキサメサゾンで副腎皮質の機能を抑制することにより副腎の過形成と腺腫の鑑別が可能である. 1回検査時の全身被曝量は福地らによれば 0.60~0.67 rad/mCi であり, 単なる高血圧のスクリーニング検査としては行なうべきでないが, 副腎皮質機能亢進症が疑われた場合には積極的に行われるべき検査法と考える. なお副腎の % uptake の測定法を検討中である.

8. ¹³¹I-iodocholesterol による副腎シンチグラフィー

○鴨井 逸馬 渡辺 克司 川平建次郎
森田 一徳 松浦 啓一
(九大・放)

副腎疾患の10例に, ¹³¹I-19-iodocholesterol による副腎シンチグラフィーを行い, 手術により

組織学的確診を得た6例中, 5例に局在診断が可能であった. 腺腫による primary aldosteronism の3例および, 腺腫による Cushing 症候群の2例であり, 全例に患側に高い副腎への集積を認めた. 対側の描出に関しては, primary aldosteronism の腺腫3例中, 2例に対側の描出がみられ, 1例は描出をみなかった. Cushing 症候群・腺腫例2例では患側に高い描出を認め, 対側の描出はなかった.

また, 左右副腎への ¹³¹I-cholesterol の集積状態を data 解析装置 (TOSBAC-40) により定量的評価を試みた. primary aldosteronism・腺腫例では, 患側: 健側は 1.5: 1 の比を示し, Cushing 症候群例ではバックグラウンドの約3倍の集積を示した. 定量的評価を行う事により, シンチグラム読影に有用な情報を与えると共に, 疾患特有の傾向等の検討を行いたいと考える.

9. ^{99m}Tc-phytic acid による肝シンチグラフィーの検討

○稲月 伸一 木下 博史 都留 義治
計屋 慧実 本保善一郎
(長大・放)

新しい肝シンチ用製剤 ^{99m}Tc-phytate と従来の ^{99m}Tc-sulfer colloid との比較検討を17例の同一症例について行い報告した. 両者共に 1.5 mCi を静注し約30分後に3インチφスキャナーにて anterior view のみのシンチフォトを得た. 一般に ¹⁹³Au-colloid と phytate との RES 系への分布はほぼ同様であるといわれているが, 我々も2症例ではあるがその結果を得た. 従って sulfer colloid に比し phytate は肝への分布が高く, 脾への分布が低くなることになる. back ground の出現に差は見られなかった.

結論:

- ①調剤法が簡単である.
- ②17症例中副作用はなかった.
- ③肝の contrast, sharpness 等の形態表現が良好である.